

ちょっとだけ!!
フライングディスク
将来構想会議
2020

将来構想メモvol.9(2020/11/10)

Flying Disc Times
presents

<ゲストプロフィール>

加藤 健太郎

【「する」関わり方】

- ・1992-95 早稲田大学SONICS(創始者)

【「支える」関わり方】

- ・1993-95
日本学生フライングディスク連盟
副委員長、総務部長、広報部長
- ・1995
フレッシュマンズカップ企画実行委員長
- ・2007-18
稲門アルティメット会(卒業生団体)
理事長
- ・2012
世界アルティメット&ガッツ選手権大会
大会組織委員会

石井 哲

【「する」関わり方】

- ・1995-98 早稲田大学SONICS
- ・1999-2000 文化シヤッター Buzz Bullets
- ・2001-2002 Furious George 等
他、日本代表として多くの国際大会を経験

【「支える」関わり方】

- ・2010-
WFDFアルティメット委員会
ルール分科会メンバー
- ・2008
日本代表 ミックス部門コーチ
- ・2010
ジュニア日本代表 オープン部門監督
- ・2016-2018
Los Angels Aviators コーチ 等

<困っていること / 課題>

どのようにアルティメットの普及を進めるか？

～アルティメット普及のための戦略と戦術～

※「アルティメット普及」の姿・・・本日の議論のための仮説

【日本】主要大学チームの体育会昇格

【米国】NCAA(全米大学体育協会)競技化

【世界】オリンピックの正式種目化

<「戦略」と「戦術」の意味>

・戦略:ある目的を達成するための大局的な方向性と長期的なスケジュール

・戦術:戦略を実行するための個別具体的な手段

※戦略をブレイクダウンすると、戦術が生まれる(逆はない)

※戦術の例:大手メディアへの掲載、フレッシュマンズカップの開催等

第9回の将来構想会議においては、「戦略」を中心に議論

<考えている解決策>・・・アルティメット普及のための戦略

意見①

スポーツシーンへのアジャスト

「ある競技をある国で普及させるには、その国のスポーツシーンにその競技をアジャストさせることが必要」

<スポーツシーンを理解する上での基礎知識>

日米型 と欧州/南米型

- ・日米型:学校体育・部活動が基盤
(甲子園やNCAAの延長線上にプロスポーツ)
- ・欧州/南米型:地域のスポーツクラブが基盤
(ビッグクラブは高校や大学のスポーツチームではない)

意見②

競技スポーツ、レクリエーションスポーツとしての「両にらみ」

競技スポーツ、レクリエーションの双方から普及を進める

※スケートボードは、レクリエーションとしての普及を経てオリンピックの正式種目化を果たしたスポーツの好例とも捉えられる

※日本フライングディスク協会は「日本スポーツ協会」「日本レクリエーション協会」の双方に所属(他スポーツと比較すると稀)

<論点の整理>

・**スポーツシーンにアジャストする上で必要なものはなにか？**

(「アルティメットとはかくあるべし」という固定観念に囚われていないか？

普及のために必要な一般人目線を忘れていないか？)

・**スポーツシーンにアジャストした上で、他スポーツとの差別化要素となる**

アルティメットの魅力はなにか？

意見①

SOTGとは、アスリートなら当然に具備しているべきフェアネス、スポーツマンシップに過ぎない。関係者の間で大切な価値観として位置付けることはよいが、一般の人にアルティメットだけの特徴のようにアピールするのは他の種目に取り組む人々に対して失礼であり、普及戦術として如何なものか。

意見②

観るスポーツとして楽しめる工夫、一般人にとって受け入れやすい工夫を全否定するべきではない。

(例:米国ではAUDLルールを批判する関係者が多いが、一般の米国人目線の工夫は評価すべき)

意見③

新規大学チームを増やすのは、協会・学連の仕事。既存大学チームを潰さないのは、卒業生団体の仕事。

(競技統括団体が個別の大学チームに対して存続のための支援を遍く行うことは現実的でなく、大学チームの長期的な存続のためには、卒業生団体による継続的支援が必要。新規大学チームの存続・強化は競技の普及に直結)

意見④

・ボールではなく、フライングディスクを用いることが、他の集団競技との最大の差別化要素。

(92年のスウェーデン-カナダ戦で、初めてアルティメットを観戦し、

フライングディスクの軌道や得点に感動したことがゲストの原体験)

・それと同時に諸刃の剣でもある。「フリスビー」と聞いただけで、お遊びと決めつける人も多い。アルティメットが個人の身体能力と集団の戦術を要する競技スポーツであることを端的に伝える工夫が、映像でも文字でも必要。

参加者写真

担当メンバー:西中良太



以下のページは将来構想会議内で使用した資料です。

テーマ:「アルティメット普及のための戦略と戦術」

『ちょっとだけ!! フライングディスク将来構想会議(第9回)』

作成:西中良太

ちょっとだけ!! フライイングディスク将来構想会議(第9回)

【ゲスト】

加藤 健太郎さん
石井 哲さん

2020/11/10 22:00～23:00(日本時間)
5:00～6:00(サンフランシスコ時間)

【司会進行】

西中 良太

Agenda

1. 本日のテーマとその背景(2分)
2. ゲスト紹介(3分)
3. ゲストトーク(30分)
4. オープンディスカッション(25分)

1. 本日のテーマとその背景

■ 本日のテーマ

「アルティメット普及のための戦略と戦術」

■ 背景

- ✓ 過去8回の会議では、ゲストひとりひとりの想いに触れるなかで、「**フライングディスクの様々な将来構想(将来像・ありたい姿)があること**」を学んだ
- ✓ そのなかで、「**フライングディスクの普及**」が概ね共通する課題であることを確認した
- ✓ 今回は、将来構想を実現させるための方法・手段に視点を移し、「**どのように普及を進めるか?**」について考えたい

2. ゲスト紹介

加藤 健太郎さん



【「する」関わり方】

- ・1992-95 早稲田大学(創始者)

【「支える」関わり方】

- ・1993-95 日本学生フライングディスク連盟
副委員長、総務部長、広報部長
- ・1995 フレッシュマンズカップ企画実行委員長
- ・2007-18 稲門アルティメット会(卒業生団体)
理事長
- ・2012 世界アルティメット&ガッツ選手権大会
大会組織委員会

石井 哲さん



【「する」関わり方】

- ・1995-98 早稲田大学
- ・1999-2000 文化シヤッター Buzz Bullets
- ・2001-2002 Furious George 等
- 他、日本代表として多くの国際大会を経験

【「支える」関わり方】

- ・2010- WFDFアルティメット委員会
ルール分科会メンバー
- ・2008 日本代表 ミックス部門コーチ
- ・2010 ジュニア日本代表 オープン部門監督
- ・2016-2018 Los Angeles Aviators コーチ 等

3. ゲストトーク ～アルティメット普及のための戦略と戦術～

「アルティメット普及」の姿…本日の議論のための仮説

【日本】主要大学チームの体育会昇格

【米国】NCAA(全米大学体育協会)の競技化

【世界】オリンピックの正式種目化

【お伺いする内容】

(1)「戦略」と「戦術」の意味(一般論)

(2)アルティメット普及のための戦略

(3)アルティメット普及のための戦術

4. オープンディスカッション

ちょっとだけ!!でも気になった点・興味を持った点をきっかけとして、議論を深めていきましょう!